



医療教育開発センター ニューズレター

徳島大学大学院医歯薬学研究部
医療教育開発センター

1 巻頭言

2 副センター長の紹介

3 取組紹介

- 「徳島大学の職種間連携教育 (IPE) 充実をめざして」
- 共感と傾聴を重視した「医療コミュニケーション」
- 主な取組報告
- 学会活動
- これからの取組
- 用語mini解説

1 巻頭言

医療教育の質保証



医療教育開発センター長 赤池 雅史

近年、教育の質保証が重要視されています。中でも医学教育分野別認証はその代表的なものですので概要をご紹介したいと思います。

わが国の医学教育分野別認証はECFMGが世界医学教育連盟 (WFME) の基準等の国際基準に認定されていない医学部の卒業者の米国医師国家試

験の受験を2023年から認めないと宣言したことを契機としていますが、本来は1988年のエジンバラ宣言から続く医学教育の質改善の流れにそったものです。認証評価は「WFME グローバルスタンダードに準拠した医学教育分野別評価基準日本版」に基づき、自己点検評価による内部質保証、評価委員による自己点検評価の検証と実地調査、フィードバック、受審大学医学部での継続的改良のステップで行われます。

用いられる評価基準は、使命と学修成果、教育プログラム、学生の評価、学生、教員、教育資源、プログラム評価、統轄および管理運営、継続的改良の9領域で構成され、「何ができるようになるか」に焦点をあてる学修成果 (アウトカム) 基盤型教育がその根底にあります。卒業時アウトカム (コンピテンス・コンピテンシー) は専門職として生涯求められる能力と連続し、大学・学部の歴史、ビジョン、ミッションに基づく必要があり、組織のポリシーが問われるといえます。そして、教育プログラム、そこに投入する教育資源 (人、物、予算)、その成果である学生の評価、その成果を基にした教育プログラムの評価と継続的改良、これらの管理運営すべてが、卒業時アウトカムを軸に検証されます。教育プログラム評価では、アウトカムに適した学生の評価により学修成果を把握するとともに、学生の意見を積極的に取り入れることが求められます。教育改善のプロセスへの学修者の参画は、その自律性の促進に繋がり、アクティブ・ラーニングと密接に関連していると考えられます。

さらに注目すべきことは、医学教育分野別評価基準には数値の設定がないことです。このことは、人間の能力に数値化できない領域がある以上、学修成果基盤型教育といえども教育の成果すべてを数値に変換して検証することは困難であり、教育の管理運営プロセスに焦点をあてることが重要であることを示唆しているのではないのでしょうか。教育の質保証においては自己点検の過程で数値目標の設定とその検証が不可欠ですが、それと共に各教育組織が自らの使命と求める学修成果に鑑み、根拠データに基づいて、「何ができて、何ができていないか、そして今後どうするか」を常に考え、継続的改善に取り組む姿勢を持つことが求められると思います。

2 副センター長の紹介 ●●●



吾妻 雅彦(医療教育開発センター 准教授)

医療の発展に伴い、専門化、細分化が進み、各専門領域で求められる知識、技能も大幅に増加しています。より質の高い医療を提供するには、個人の努力に頼るだけでは限界があり、各専門職の相互理解と協力が一層求められています。医療教育開発センターでは、2007年から蔵本地区1年生を対象に合同ワーキングショップ「チーム医療入門」を、また2014年から学部連携PBLチュートリアル開催および開催支援を行ってきました。更に専門知識が増えた高学年において、職種連携を目指した学部にもたがった実習に着手しています。将来プロフェSSIONALとして相互に理解、尊重、協力することで、高いパフォーマンスを実務の中で発揮できる医療人が育つことを目指し取り組んで参ります。今後とも、皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



岩田 貴(教養教育院 医療基盤教育分野教授)

平成28年4月1日で教養教育院が始動いたしました。これに伴って、これまで医療教育開発センター副センター長として携わってきた卒前(高学年)・卒後(研修医)教育、生涯教育(医師会などと地域連携)に加えて、専門性を生かした卒前の初年次教育にも携わることで初年次から卒後まで一貫した医療基盤教育の構築と実践を目指すというミッションを拝命しました。これからは常三島キャンパスの教養教育院、蔵本キャンパスの各医療系学部、卒後臨床研修センター、キャリア形成支援センターや地域医療支援センターと協力して「All徳島大」で、質が高く安全な医療を提供できる人材の育成を目指し、診療・研究のニーズと教育のアウトカム的一致を常に意識しながら、スキルスラボを活用した基本的技能から高度技術にわたるシミュレーション教育やon-the-job training、off-the-job trainingを実践し、優れた医療人の育成に貢献したいと思っております。



野間 隆文(口腔科学教育部 教授)

平成28年度も引き続き、歯学部および口腔科学教育部の代表として副センター長を務めることになりました。いよいよ第3期中期計画がスタートしました。現在、国立大学を取り巻く社会環境は激動の時代のまただ中にあります。その中で、学部・大学院は学位授与方針に従って教育を実施するとともに、グローバル化に対応できる人材の育成、地方大学として地域貢献を推進しつつ、独創的な研究成果の創出を目指しています。医療教育開発センターではその社会的ニーズをしっかりと受け止め、教育プログラムの中に取り込んでいくことが重要であると思っております。そのためにも進取の気風を育む教育体制の構築・運営に尽力したいと思います。



小暮健太郎(薬科学教育部 教授)

今年度から副センター長として医療教育開発センターの活動に参加させていただくことになりました。医療教育開発センターが行っている組織横断的な医療教育支援は、将来薬剤師として医療現場で働く際に欠くことのできない「チーム医療」などの重要性を学生に認識させるため、薬学部教育において重要な役割を果たしています。また、薬科学教育部における教育に関して、医療教育研究開発センターが推進している共通科目e-learningなどは、高度な医療人・研究者の育成に欠くことのできないものです。学部・大学院を通じ、医学・歯学・栄養学・保健学の異なる分野間と連携し対応しうる能力を身につけたYAKUGAKUJIN(薬学人)の育成を目指して、副センター長として微力ながらセンターの発展に取り組ませていただきたいと思います。



阪上 浩(栄養生命科学教育部 教授)

平成28年度4月より栄養生命科学教育部の代表として副センター長に就任いたしました。近年、医学教育のあり方は急速に変化してきております。医科栄養学科は、医学に立脚した管理栄養士養成を目指すために改組されましたが、自ずと我々の教育体制も変化していかなければなりません。さらに高度な技能・知識を有する管理栄養士を養成するために大学院教育の改組に現在取り組んでおります。栄養学の専門性をいかしつつ、多職種連携教育やシミュレーション教育など、組織の枠組みを超えた教育連携を赤池医療教育開発センター長の下尽力していきます。



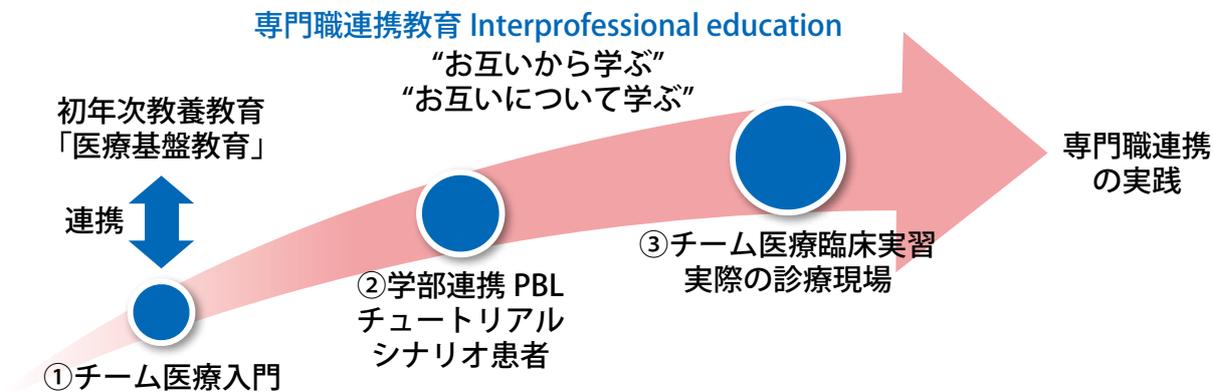
谷岡 哲也(保健科学教育部 教授)

引き続き、副センター長として、医療教育開発センターの活動に参加させていただきます。保健科学教育部においてもグローバル化に取り組んでおり、国際的な教育や研究指導に取り組んでいます。今年度は、タイのPrince of Songkla UniversityおよびフィリピンのSt. Paul Universityの保健学科との学術交流及び学生交流協定の覚書を交わす準備をしています。四国で唯一、看護学、放射線科学、検査技術科学の学部から博士課程まで一貫した教育体制や医療系3学部5教育部を有する環境を活かし、実践力のあるチーム医療、地域医療、国際医療に貢献する医療人、教育者、研究者を育成していきたいと思っております。

3 取組紹介

■徳島大学の専門職連携教育(IPE)充実をめざして

徳島大学の医療系学部・学科は蔵本キャンパスに集約しており、チーム医療の実践に必要な多様な能力の習得を目指した専門職連携教育に適した環境にあります。医療教育開発センターでは体系的・段階的なチーム医療教育の構築と実践を支援しています。

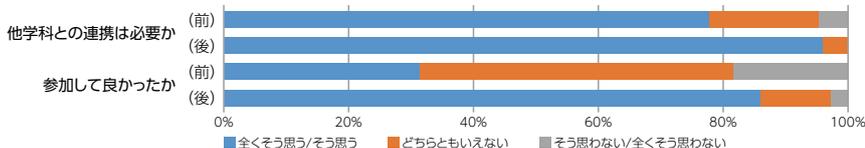


① チーム医療入門：蔵本地区1年生合同ワークショップ

概要 皆で協働して、異なる立場や様々な観点から意見交換を行いプロダクトを作成し、プレゼンテーションを行う。

2007年から医・歯・薬学部1年生全員を対象にワークショップ形式の合同授業を開催しています。2015年からは「SIH道場～アクティブラーニング」の授業として、学びの基礎を身につける教育プログラムとして位置付けられています。専門的知識の少ない1年生が討議できるよう「医療安全」「高齢化社会」「災害」などをテーマとしています。

参加学生アンケート結果

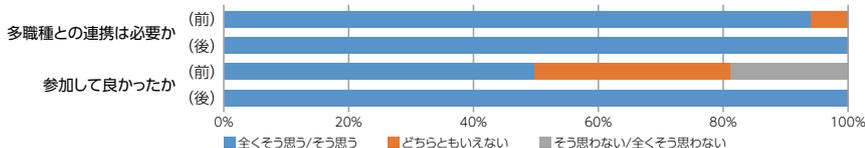


② 学部連携 PBL チュートリアル

概要 患者シナリオを用いてグループ討議と自己学習を行いながら問題点を抽出し、プロブレムマッピング方式を用いて全人的な問題点の解決法を立案する。

2014年度から、全人的ケアを考える学部連携PBLチュートリアルの試行を開始しています。有志学生の参加を募り、2日間(隔日)開催しました。自己学習と討議を繰り返す過程で、情報や方針の共有、強調・連携の必要性や、コンフリクト(対立)への対応も学びます。

参加学生アンケート結果

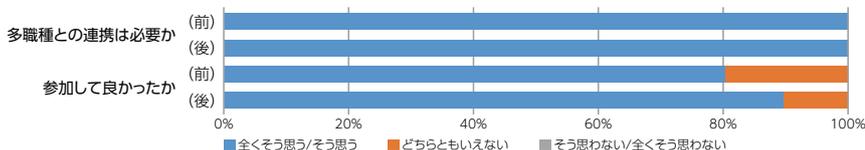


③ チーム医療臨床実習

概要 入院患者のケア・治療について多職種で討議する。

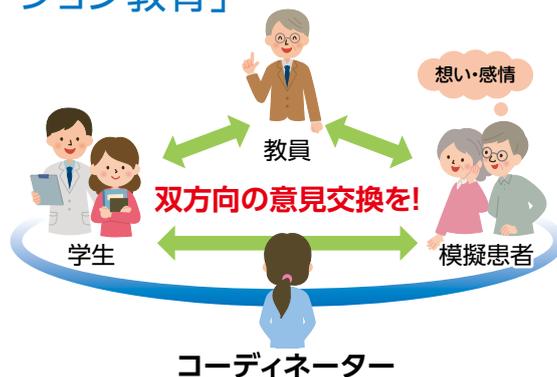
2016年度に呼吸器・膠原病内科でチーム医療臨床実習を実施しました。実際の診療現場で、入院患者さんのケアと治療について、医学科6年生と薬学部5年生が討議しました。今後、他学科学生の参加に向けて検討を重ねていきます。

参加学生アンケート結果



■共感と傾聴を重視した「医療コミュニケーション教育」

医学科、保健学科看護学専攻、保健学科放射線技術科学専攻、歯学科、薬学部では共用試験OSCE「医療面接課題」やコミュニケーション実習で模擬患者の教育への参加が進んでいます。



医療人が患者さんとの関わりの中で大切にすべきことは何でしょうか? 模擬患者参加型実習では学生が一般市民である模擬患者の思い・感情を確かめながら共感と傾聴を重視したコミュニケーションを実践できるように、学生、教員、模擬患者の三者が双方向に意見交換することを推奨しています。

■主な取組報告

●2016 Tokushima Bioscience Retreat

日時：平成28年9月15日(木)～17日(土)
場所：香川県 リゾートホテルオリビアン小豆島
特別講演：矢野 聖二 先生
(金沢大学がん進展制御研究所/腫瘍内科教授)
演題：肺がんととの戦い
参加者：学生22名、教職員11名



■これからの取組

●第10回「チーム医療入門」蔵本地区1年生合同WS

日時：平成28年9月30日(金) 13:00～17:00
場所：蔵本キャンパス (大塚講堂他)
テーマ：医療安全と質の向上にむけて今、学生の私達にできること
講師：小松原 明哲 先生 (早稲田大学 理工学術院 教授)
演題：チーム医療への人間工学からの提言

●第4回学部連携PBLチュートリアルトライアル

日時：平成28年11月4日(金)、9日(水) 18:00～19:30
場所：スキルス・ラボ5&6

●第5回模擬患者参加型教育検討会

日時：平成29年3月14日(火) 18:00～19:30
場所：日亜メディカルホール

<企画中>

●第8回医療教育講演会

●第6回How to医療コミュニケーション教育

●学会活動●

●Society American Gastrointestinal Endoscopic Surgeons 2016 (March 16, 2016. Boston)

『Trial of the flipped classroom for open suturing and simulated laparoscopic cholecystectomy for medical students』
Takashi Iwata^{1,2,3}, Masashi Akaike², Kouzou Yoshikawa³, Jun Higashijima³, Toshihiro Nakao³, Masaaki Nishi³, Chie Takasu³ and Mitsuo Shimada³
Basic Education in Medicine, Department of Liberal Arts and Fundamental Education¹, Center for Healthcare Education Research², Department of Digestive Surgery³, Tokushima University Graduate School of Biomedical Sciences

●第71回日本消化器外科学会総会 (H28年7月14～16日 徳島)

『若手外科医育成のための卒前教育からの工夫～移植シンボと反転授業を応用した実習の試み』
岩田 貴^{1,2,3}、島田光生³、吉川幸造³、東島 潤³、中尾寿宏³、西 正暁³、高須千絵³、赤池雅史²
教養教育院医療基盤教育分野¹、大学院医歯薬学研究部医療教育開発センター²、大学院医歯薬学研究部消化器・移植外科³

●第48回日本医学教育学会大会 (H28年7月29～30日 高槻)

『診療参加型臨床実習における学生の満足度と学修到達度の規定因子』
赤池雅史^{1,2}、三笠洋明²、西村明儒^{2,3}
大学院医歯薬学研究部医療教育学¹、医学部教育支援センター²、大学院医歯薬学研究部法医学³

『医療系学部中・高学年に対する他職種連携PBLチュートリアル授業の試み』

岩田 貴^{1,2}、赤池雅史²、吾妻雅彦²、長宗雅美²
教養教育院医療基盤教育分野¹、大学院医歯薬学研究部医療教育開発センター²
『模擬患者参加型教育による医療面接教育改善の取組』
長宗 雅美¹、吾妻 雅彦¹、岩田 貴¹、三笠洋明²、西村明儒²、赤池雅史¹
大学院医歯薬学研究部医療教育開発センター¹、医学部教育支援センター²

●第4回日本シミュレーション医療教育学会学術大会 (H28年9月24日 浜松)

『自学実習を目指したeye hand coordination強化用腹腔鏡シミュレータの開発』
岩田 貴^{1,2}、赤池雅史²、吾妻雅彦²、長宗雅美²
教養教育院医療基盤教育分野¹、大学院医歯薬学研究部医療教育開発センター²

●用語mini解説●

コンピテンス・コンピテンシー

医療教育ではコンピテンスは医療人の業務に基づく概略的な能力とされ、コンピテンシーはその観察可能な具体的能力として、「単なる知識や技能だけでなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な要求(課題)に対応することができる力」と定義されている(OECD 2003年、文部科学省)。通常これらは学修成果基盤型教育における学修アウトカムとして掲げられる。